



## 全ての出来事には意味がある

加治木中学校長 吉留 雅樹

12月24日終業式のときに、私は以下の作文を生徒に紹介しました。

「元服」

僕は、今年三月、担任の先生にすすめられて、B君と二人、ある高校を受験した。その高校は私立ではあるが、全国の優等生が集まってきている、いわゆる有名高校である。担任の先生から「君たち二人なら絶対大丈夫だと思う」と強くすすめられたのである。ぼくらは得意であった。父母も喜んでくれた。先生や父母の期待を裏切ってはならないと、僕は猛烈に勉強した。ところが、その入試で、B君は期待通りパスしたが、僕は落ちてしまった。得意の絶頂から奈落の底へ落ちてしまったのだ。何回かの実力テストでは、いつも僕が一番でB君がそれに続いていた。それなのに、その僕が落ちてB君が通ったのだ。誰の顔も見たくないみじめな思い。父母が部屋に閉じこもっている僕のために、僕の好きなものを運んでくれても、やさしい言葉をかけてくれても、それがみんなよけいしゃくにさわった。何もかもたたき壊し、引きちぎってやりたい怒りに燃えながら、ふとんの上に横たわっているとき、母が入ってきた。「B君が来てくれたよ」と言う。僕は言った。「母さん、僕は誰の顔も見たくないんだ。特に、世界中で一番見たくない顔がある。世界中で一番いやな憎い顔がある。誰の顔か言わなくてわかっているだろう。帰ってもらってくれ！」母は言った。「せっかく、わざわざ来てくれているのに、母さんにはそんなこと言えないよ。あんた達の友達の関係って、そんなに薄情なものなの。ちょっと間違えば敵味方になってしまうような薄っぺらなものなの。母さんにはB君を追い返すなんてできないよ。いやならいやでソッポ向いていなさいよ。そしてたら帰るだろうから」と言って母は出ていった。入試に落ちたこの惨めさを、僕を追い越したことのない者に見下される。こんな屈辱ってあるだろうかと思うと、僕は気が狂いそうだった。二階に上がってくる足音が聞こえる。ふとんをかぶって寝ているこんなみじめな姿なんか見せられるか。胸を張って見据えてやろうと思って、僕は起き上がった。戸が開いた。中学の三年間いつも着ていたくたびれた服で、涙をいっぱいためたB君が、くしゃくしゃの顔で「A君、僕だけが通ってしまっでごめんね」やっとそれだけ言ったかと思うと、両手で顔をおおい、かけおりのようにして階段を下りていった。僕は恥ずかしさでいっぱいになった。思い上がっていた僕。いつもB君には負けないぞと、B君を見下していた僕。この僕が合格して、B君が落ちたとして、僕はB君を訪ねて「僕だけが通ってしまっでごめんね」と泣いて慰めにいったらどうか。「ざまあみろ」と、よけい思い上がったに違いない自分に気が付くと、こんな僕なんか落ちて当然だったと気が付いた。彼とは人間のできが違いと気がついた。通っていたら、どんなに恐ろしい、ひとりよがりの思い上がった人間になってしまったことだろう。落ちるのが当然だった。落ちてよかった。本当の人間にするために、天が僕を落としてくれたんだと思うと、悲しいけれども、この悲しみを大切に直すぞと、決意したいなものがわいてくるのを感じた。僕は今まで思うようになることだけが幸福だと考えてきたが、B君のおかげで、思うようにならないことの方が、人生にとって、もっと大事なことなんだということを知った。昔の人は十五歳で元服したという、僕も入試に落ちたおかげで、元服できた気がする。

昔（奈良時代以降）男子は15歳になると、大人になるための儀式「元服」を行っていたそうです。昔の人々は中学生の年代で大人（成人）として行動するよう求められていたのです。

この男子生徒は、受験の失敗や友の行動がきっかけとなり、自分を見つめ直し成長できたことを「元服」と表現しています。この作文を読む度に、すべての出来事には意味がある。そして、どう受け止めるかで今後の生き方が変わってくるということを、改めて考えさせられます。

みなさんには「元服」することができたと思える出来事がありますか。

## 生徒会新スローガン

1月19日(月)の生徒朝会で、生徒会から新しいスローガン「瑛彩加中」が発表されました。サブタイトルは、「～自分を見つめ仲間と共に高め合い 一人一人が長所をのばせる学校～」になっています。「慧耀加中」から受け継いだ加治木中のよさを、46年目の加治木中の活動をとおして、一人一人の姿で具現化してくれることと思います。保護者、地域の皆様の応援をお願いいたします。次の文は、スローガン発表時の説明等です。

「瑛彩」の読み方は「えいさい」です。まず、「瑛」とは「純粹」や「素直」という意味があり、「彩」には、「色とりどり」や「様々な」という意味があります。サブタイトルは、「～自分を見つめ仲間と共に高め合い 一人一人が長所をのばせる学校～」にしました。まず「自分を見つめ」は、自分のことを振り返り短所を改善していく。次に「仲間とともに高め合い」は、周りを思いやりながら成長していく。これらのことは、瑛彩の「瑛」から素直な心をもって自分自身を見つめなおし、周りと一緒に高め合うという思いが込められています。最後に「一人一人の長所をのばせる」は「彩る」から一人一人のよいところを大切に伸ばしていくという思いが込められています。このスローガンはこれからの学校の進む方向を決めた大切なものです。みなさんから回答してもらったアンケートを基に考えました。この学校の生徒全員で考えたものです。一人一人がしっかりとスローガンに込められた思いや意味について意識しつつ日々を大切に過ごして行きましょう。



## 3年実力テスト

1月9日(金)に3年生を対象に実力テストを実施しました。私立入試を目前に控え、これまでの学習の成果と課題を確認する大切な機会となる直前のテストになります。結果だけで判断するのではなく、間違えた問題や理解が不十分な分野を見直し、私立本番または公立高校入試までの学習計画に生かして欲しいと思います。一問一問を大切に解き、入試本番で力を発揮できるよう、最後まであきらめずに取り組む決意で臨んでいる様子でした。



## 鹿児島学力・学習状況調査

1月15日(木)・16日(金)に1年生、1月20日(火)・21日(水)に2年生を対象に鹿児島学力・学習状況調査を行いました。この調査は、全県的な傾向との比較・分析などを通じて、加治木中学校の課題を明確にし、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善や、生徒の学力向上を図ることを目的としています。本年度もC B T形式(コンピューターを使って行われる試験方式)による実施で行われ、不具合等もありましたが、最後まで真剣に取り組む姿がみられ、頼もしく思いました。結果が楽しみです。



## 朝のあいさつ運動

1月19日(月)から朝のあいさつ運動が始まりました。このあいさつ運動は、平成13年度から始まりました。この運動は、自分の子供だけではなく、他の子供たちにも声をかけ、明るい学校づくりをしていこうという願いが込められています。本年度も保護者や地域の皆様、生徒会を中心とした生徒たちが協力し、正門等で明るく元気なあいさつを交わしています。朝の「おはようございます」という一言が、学校全体の雰囲気や和やかにし、生徒同士や大人との心の距離を縮めています。また、地域の方々と直接ふれ合うことで、感謝の気持ちや礼儀の大切さを学ぶよい機会にもなっています。今後もあいさつ運動が継続され、学校・家庭・地域が一体となって、温かく安心できる学校づくりを進めていきたいと考えています。



## 2月行事予定

- 3日(火) 公立高校推薦入試  
市外国語教育推進事業研修会
- 6日(金) 3年PTA 漢字検定
- 7日(土) 始良市心を育む食育講演会
- 11日(水) (祝) 建国記念の日
- 12日(木) 後期期末テスト(～14日)
- 13日(金) 小中合同研修会(柁城小)
- 19日(木) 1・2年PTA、学校保健委員会  
第3回始良市校外生活指導連絡会
- 21日(土) 「市生きイキ! マナビフェスタ」
- 23日(月) (祝) 天皇誕生日
- 24日(火) 第2回学校評議員会
- 25日(水) 2年職場体験学習(～27日)
- 26日(木) 第2回合同生徒指導部会

